

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500058		
法人名	社会福祉法人 値賀の里		
事業所名	グループホーム 暖家		
所在地	長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷2698-1		
自己評価作成日	平成31年1月20日	評価結果確定日	平成31年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JikvosoCd=4291500058-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成31年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内は天井が高く開放的な造りになっている。窓からは青い海や五島列島の島々が見え、眺望がよい。 基本理念を念頭に置き、その実現に向け職員で協力し合い努力している。 地域柄、ご利用者様、ご家族、職員、地域の方々が知り合いや顔馴染みであることが多く、親しみやすい関係が築きやすい。 墓参りやお寺の参拝など外出支援に力を入れている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づく運営の面において、利用者には自然の中で自分らしく、ありのままに日常生活を営んでほしいという理事長の想いを基盤にして、職員は日々理念の実践に勤しんでいる。この理念の実践をひも解くと、ソフト面においては食事の際の配膳や下膳、居室やホールの掃除等、生活の中で自立支援に向けた取組みを自然と方向付けたり、利用者同士お互いに助け合う風潮が自然に発生していて、まさに「暖かい家」を見ているようであった。またハード面において、広くて開放感のあるゆっくりしたホームの佇まいは、利用者や職員も心にゆとりを持って、生活や支援ができるようにとの想いで設計されている。最後に地域との関わりがとても密接であり、ホームを一步外に出れば利用者のこれまでの人的なつながりを確保できることから、可能な限り外出する機会を多く作って関係継続の支援を実践している。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付くところに掲示し、朝礼時に皆で唱和することで、理念を共有、再確認している。	「笑顔のたえない楽しく暖かい家」という理念の実践として、ここ最近ホームとして重点的に取り組んでいることは、楽しんでもらうことの1つに日々のレクリエーションの充実を図ること。また、危険が及ばない限り、利用者が自由な生活を送ることができるように、見守りも含めた支援を行うことであった。また、配膳や下膳等できることは利用者同士協力し合い、人として助け合うという互助の様子を、訪問調査中にも確認することができた。今後、更なる理念の共有や実践に向けて、定期的に職員同士話し合う機会を持つことができれば、更なる深化が期待できる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会に参加したり、運動会やお祭りなど地域の行事には積極的に出掛けるようにしている。中学生や地域のボランティアの慰問を受け入れ交流につなげている。暖家主催のクリスマス会に近隣の方を招待している。	ホームの所在する地域の特徴として、利用者職員、地域住民の関わりは深く、利用者が外出すると必ずと言っていいほど、知り合いと遭遇するとのことであった。クリスマス会等のホームの行事に住民を招待したり、地域の行事にホームの職員が加担したりして、相互通行の関わりを、ヒアリングや資料の中から確認することができた。最近の傾向としては、多数というわけではないが、アイターンしてきた住民が、ホームの行事に参加するようになってきているとのことであった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で介護している家族から相談されることがあり、支援の方法等アドバイスしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、活動報告や意見交換を行っている。出された意見は職員会議や職制会議で報告し職員間の共有、実践に繋げるようにしているが現在は報告中心となっている。	2ヶ月に1回定期的な開催のおかげで、以前よりは外部からの参加者から意見が出てくるようになってきたとのことであったが、傾向としてはホームから参加者への「報告型」の会議になっていることは否めないとのことであった。但し、クリスマス会等のホームの行事と一緒に開催して、外部の方が普段のホームの様子を見ることができるよう工夫している点は、今後の会議の活性化に向けたヒントの1つと考えられる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者との連絡は運営推進会議が中心となっている。役場に出掛けた際にも担当者と話す機会があり、協力関係を築いている。	町の担当の方との情報交換は、介護保険制度関連が中心とはなっているが、随時、感染症の情報や、高齢者介護に関する時事情報を提供してくれるとのことであった。ホームからの定期的な情報提供として、利用者へのサービスの実際や、待機者の情報提供等を中心にして行っている。今後は地域ケア会議関連の意見集約の機会が予定されているとのこと、このような行政からの案内には積極的に関与していくとの方針であった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度身体拘束・虐待防止委員会を開催。全員参加し事例を用いて勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束や虐待廃止に向けたホームとしての中心的な取り組みは、定期的に開催している身体拘束・虐待防止委員会での協議となっている。基本的には職員全員参加で、この場において知識の深化や、不適切な関わりがないか、職員がお互いに確認するようにしている。また、身体拘束や虐待の1つの要因となっている、職員のストレスケアについては、管理者は普段から職員に声かけするようにしていて、気になることがあれば、理事長にも報告して情報共有を図っている。理事長も管理者同様に、職員の普段の様子を気掛けていて、できるだけ多く職員とのコミュニケーションをとるようにしている、このように普段の様子を重要視して、職員のちょっとした変化に気づくことが抑止力の1つともなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に一度身体拘束・虐待防止委員会を開催。全員参加し事例やニュースになった事件を用いて、虐待をしないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、成年後見人制度について学ぶことが出来た。後日研修報告をし職員間で共有している。制度利用の事例はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設利用開始前に面談したり、見学をして頂き不安を軽減出来るよう努めている。契約時には重要事項説明書を用いて説明し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会で意見や要望を聞いている。ケアプランの見直し時期に「意見書」を出して頂いたり、毎月送付している「暖家だより」で意見や要望を伝えてくださいと呼び掛けている。	家族からの意見等を得る場としては、ホームでの日常的な面会の時や、2ヶ月に1回の運営推進会議、ケアプランの見直し時期、年に2回法人として開催している家族会が中心となっている。島外に居住している家族も多いため、意見を得る機会は限定されてくるが、可能な限り集約する機会を多く設けている。また、なかなか面会に来ることのできない家族に対しては、安心してもらえるようにこの想いで、「暖家だより」を送付して、質問や意見を受けることができるようしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別の面談は行っていないが、職員会議や処遇会議の中で意見や提案を聞くようにしている。	ホームの上位者と職員による定期的な個別面接は、今のところ行っていないが、理事長や管理者は普段からコミュニケーションを意識して意見を聴く姿勢を示している。この取り組みを継続する中で、職員からの声を反映する形で、食事担当の職員を雇用することとなり、職員は利用者への支援に集中できるようになった。このように利用者や職員への処遇改善につながることは、積極的に話し合いを通じて実行していく方針とのことであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有する資格(介護福祉士、ケアマネージャー等)に応じて手当が付いたり、正社員として雇用している。職員の希望に沿って勤務を組むよう努め、地域の行事等に参加したりリフレッシュが出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	島外の研修には参加出来ていないが、町内で開催される研修や勉強会には積極的に参加し、研修報告で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	養寿園や社会福祉協議会等の方達と一緒に勉強会を行い、サービスの質の向上の取り組みや情報交換をしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談したり、施設を見学して頂くことで少しでも不安が和らぐよう努めている。また入居後は笑顔で声掛けし困ったことや不安なことを言いやすい雰囲気作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時や電話がかかって来た時等に要望や疑問を聞いたり、入居後はご利用者様の様子を伝えることで不安を無くしていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が、どのようなサービスを必要としているのか話を聞き、提供出来る事と出来ない事があることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来る範囲で、自室や洗面所の掃除、洗濯物を干したり、たたんだりといった家事を手伝って頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「暖家だより」を個々に郵送し、近況を報告し共有している。面会や、ご本人やご家族の希望に応じて自宅に外出、外泊したり、電話をかけ会話することで関わりを持って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの途中で自宅周辺を訪れたり、馴染みの理美容院での散髪や商店での買い物、墓参りや寺参り、祭り等地域の行事に出掛けられるよう支援している。受診も知人と会って話をする機会になっている。	ホームの所在する地域の特徴として、利用者が一歩外に出れば、知り合いと出会う確率が高いような環境であるため、散歩や受診、買い物、自宅に戻る等の日常的な支援が、馴染みの人や場との関係継続に直結している。ホーム職員はこのところを理解しており、日常的な外出を意識して行事を考えたり、日々の支援を工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に家事を手伝って頂いたり、レクや体操等に参加して頂くことで交流を図っている。食事の席やソファ、車内の座席は相性に配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、同じ地域の住民としての関係は続くため、会えば挨拶をしたり近況を尋ねたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を直接尋ねたり、日常の会話から引き出したり、上手く表せない方の場合には行動や表情を観察し、汲み取るよう努めている。	日常生活の中や入浴時等に、利用者とゆっくり話しをする中で思いや意向を把握している。把握が困難な利用者は、行動や表情をよく観察して「介護支援経過」に記録し、月1回開催する処遇会議で全職員で話し合い、客観的に意向を把握する仕組みがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、在宅のケアマネから生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等を伺ったり、ショートステイ利用時の様子は養寿園の職員から聞く等し、把握に努めている。職員が顔馴染みであることも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を介護支援経過や各種チェック表に記録し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様それぞれの担当者がモニタリングし、全員でカンファレンスを行っている。話し合いの場にご本人やご家族は同席されていないが、意見書に記入して頂いたり面会時に話を聞くことで意見や希望を計画に反映させている。	介護計画のサービス内容に沿って支援しているか「介護支援経過」に毎日記録し、担当職員(各職員が1～2名の利用者を担当)が6か月ごとにモニタリングを行っている。それを基に、利用者の意向や家族の要望(「意見書」で把握する)を踏まえ、処遇会議(全職員参加)で目標やサービス内容を検討して作成している。家族に介護計画を説明し、同意を得ている。退院等、利用者に変化があれば、その都度見直しを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月2回の会議や個人記録、各種チェック表、申し送りノート等を活用し現状の把握と共有に努め、実践や計画の見直しに生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	親族の冠婚葬祭に参加できるよう支援。面会や行事の際のご家族の送迎、島外の病院をご利用様が家族の付き添いで受診する際、港までの送迎を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民との馴染みの関係は築かれており、町民の一人として地域に支えられている。ボランティア(踊り、演奏など)を受け入れ交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は一か所しかなく、入居後も引き続きかかりつけ医に診てもらっている。必要に応じて精神科など専門外来を受診。職員が同行しご家族に報告するようにしているが、状況によりご家族も一緒に受診して頂いている。	入所後も、引き続きかかりつけ医に受診している。受診は職員が同行し、バイタル等を医師に報告している。医療機関が近いので、ゆっくりと散歩しながら受診し、待合室で地域住民との会話を楽しんでいる。主治医の指示により必要な診療科目を受診して、受診結果は電話や「たより」で家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	暖家には看護師がいないため、発熱など体調が変化した時は直接診療所に連絡し早めに受診している。同法人施設の看護師とは相談ができる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療所に入院した際は様子を見に行き、医師や看護師から病状や退院の目途について情報を得ている。退院後の注意点等の指示も受けている。島外の医療機関に入院した際は、電話でソーシャルワーカーと連絡を取り合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行った事例はあるが、体調不良で入院しそのまま退所となったり、重度化した場合は養寿園に入所する流れになっている。ご家族へは入所時に説明している。	入所時に、看取りや重度化した場合のホームの対応を家族に説明している。利用者の状況に変化があれば家族と話し合い、今後の方針の統一を図っている。	入所時に、看取りに関するホームの方針や重度化した場合のホームとして対応しうる支援方法を口頭で説明している。今後は看取りや重度化した場合の方針を明文化し同意を得ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導でAEDの使用方法や心肺蘇生の方法を学んだ。定期的な訓練の実施には至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	夜間を想定した防災訓練を年2回実施している。うち1回は消防署や養寿園と合同で訓練を行い協力体制を築いている。自主検査チェック表を用いて火気関係のチェックを行い、20時・23時には戸締りや火の元を確認している。	消防計画や災害発生時のマニュアル(手順)を作成している。自動通報装置を設置し、災害発生時には消防署や法人の他施設、全職員に連絡する体制が整っている。島内の防災無線により消防分団が出動する仕組みもある。防災訓練後は毎回、消防署に報告書を提出している。「自主検査チェック票」で毎日点検を行い、3日分の備蓄も整えている。	災害発生時のマニュアル(手順)が作成され、台風時は翌日勤務の職員が待機する仕組みが整っている、今後は、防災計画に沿った訓練を行うことを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調にならないよう丁寧語、敬語で話し、ご本人の思いをそのまま受け入れ否定しないよう心掛けている。	年長者として敬意を払い、言葉や声かけについて、処遇会議や「身体拘束・虐待防止委員会」で理事長や管理者が話をしている。日常生活の中で気づきがあれば、その都度管理者が注意し、認知症勉強会に参加する等、ホームとして日常的な確認と改善に向けた取り組みを行っている。個人情報は事務所内の鍵付き書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を表しやすいような言葉かけや、待つ姿勢で自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝の時間、食事の時間など出来る限り一人一人のペースに合わせるようにしている。希望に沿った外出支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を自分で選べる方はご本人に任せ、困難な方は職員がその人らしい物を選ぶよう心掛けている。馴染みの理美容室に出掛けたり、洋服や靴を購入する際は一緒に出掛け選んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や地元で採れた野菜、海産物を献立に取り入れるようにしている。野菜の皮むきやゴマすりなどの下ごしらえ、下膳やテーブル拭きなど手伝って頂いている。お弁当を持って花見に出かけたり、季節を感じられるメニューを提供するよう努めている。	利用者は、状況に応じて野菜の皮むきやゴボウのささがき、テーブル拭き、下膳などを手伝っている。各職員が1週間分の献立を利用者の好みを聞いて作成している。利用者の要望で10時にコーヒータイムを作り会話を楽しんでいる。天気のよい日は、玄関先にテーブルを出して海を見ながら食事をする等、食欲を高める工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や1日の水分量を記録し、十分な量が確保できるよう支援している。冷たい水、熱いお茶など好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。ご本人の力に応じ、声掛けや見守り、介助し清潔を心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け、パターンを把握し声掛け、誘導することで失敗やパットの使用が減り、トイレで気持ち良く排泄が出来るよう努めている。	毎朝、蒸しタオルで身体を拭き、下着の着替えを行っている。排泄が自立している利用者は自発的にトイレに行き、他の利用者也トイレ誘導により快適に過ごしている。職員は利用者の生活パターンやサインを把握して個別に支援している。また、トイレは十分な広さが確保され、使い勝手のよい環境を整えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を飲んで頂く。1日の水分摂取量が1000cc以上になるよう、こまめに提供している。昼食前に全員で歩行訓練や体操を実施し便秘予防に努めている。医師に相談し下剤での調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	回数や時間帯は決まっているが、少しでも気持ちよく入浴して頂けるよう浴室や脱衣所の温度を調整したり、入る順番に配慮している。毎年初湯はゆず湯にしている。羞恥心に配慮し、背中側に立つようにしたり、少し離れたところから見守るようにしている。	脱衣室や浴室にはエアコンを設置し、滑り止めマットや職員のアイディアで設置した手すり（洗い場から浴槽まで安全に移動できる）により安全な入浴が確保されている。入浴時に利用者と職員が1対1で話をする等、入浴を楽しむ工夫をしている。皮膚の状態や身体の変化は「介護支援経過」に記録し職員間で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は自宅から持ち込んで頂き、使い慣れたものを使用している。昼間も自由に休んで頂いているが、昼夜逆転しないようレクや日光浴の声掛けも行っている。夜間の室温や明るさを調整し、快適に眠れるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、種類や用法・用量を確認できるようにしている。薬の追加や変更、臨時薬が処方された時は申し送りノートに記入し周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	亡くなったご家族の写真や位牌を持って来られた方が毎朝お供えを上げたり、日課だった墓参りや寺参りに出掛けられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って買い物や墓参り、寺参りに出掛けたり、ドライブや散歩をしている。自宅への外出や外泊、親戚宅への訪問も行っている。 初詣や地域の行事にも積極的に出掛けるようにしている。	地域の人達とのふれ合いを楽しんでもらいたいとの思いで、ホームでは外出支援に力を入れている。商店街に買い物に行く、馴染みの美容室に行く、墓参りや寺参り、家族の要望で法事に出席して親戚とふれ合う、自宅で家族と一緒に昼食を食べる、外泊をする等、一人ひとりの希望に沿って支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かったお金は事務所で保管している。数名の方はご自分で管理し、買い物に出掛けた際ご自身で支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に家族や友人に電話をかけ、会話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや洗面所はこまめに掃除し清潔を心掛けています。ホールの壁に季節ごとの飾りをご利用者様と一緒に作成して貼ったり、雛人形やクリスマスツリー等も飾り、季節を感じられよう工夫している。	ホールの室温、湿度に配慮し、快適な環境を整えている。壁に手作り作品を掲示し、写真や折り紙を飾り、利用者はソファでテレビを見たり、「町の広報誌」を読んだり自分のペースでゆっくりと過ごしている。ホールの掃除や手すり、テーブル、手の消毒をこまめに行い、全職員はマスクを着用する等、感染症予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広く開放的なホールになっており、ソファや椅子など思い思いの場所で、気の合う方同士で座り会話されている。玄関にもベンチや椅子を用意し海や五島の島々を眺められるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や家具、TV等を持ち込まれ、使い勝手がいいように配置されている。ご家族の写真を飾ったり、それぞれの居室が違った雰囲気になっている。	利用者は、状態に応じて毎朝、居室をモップがけし、2日に1回、居室に設置している洗面台を掃除している。お位牌にお茶をあげ、遺影や家族の写真を飾る等、利用者が安心して過ごせるように環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに張り紙をして分かりやすいよう工夫している。食卓の椅子は2種類用意し、ご利用者様に合わせて使い分けている。		